

「二十歳のつどい」

初開催にあたって

市長 米本 弥一郎



1月8日、本市で初めての「二十歳のつどい」を挙行しました。昨年度、成年年齢は18歳に引き下げられましたが「受験や就職活動の時期と重なる」といった意見から、新たに二十歳を迎える方を対象に、名称を改めるの開催となりました。

二十歳のつどいは、これまでと同じく実行委員会により運営されました。本市では5つの中学校の三年生が、東総文化会館で合同文化祭を実施しています。「5年後に、またここで会いましょう」と約束し、文化祭実行委員会が二十歳のつどい（昨年までは成人式）実行委員会に衣替えし、準備から当日の司会や進行など、全てを取り仕切ります。

式典では、来賓から「皆さんの態度や挨拶を聞く姿勢が素晴らしい。恩師のご指導の賜ではないでしょうか」と、お褒めの言葉を頂きました。

意見発表で「感謝の気持ちを持つて生きる」「社会貢献できるような努力」「何度も挑戦」「自身を成長させた」「私たちの手で世の中を良くしていく」と発言され、若者らしくも大人として頼もしい表明でした。

新しい企画として、中学時代の恩師からスピーチを頂きました。当時の思い出話や人生訓「このつどいを単なる同窓会ではなく、決意や覚悟の場にして欲しい」というご指導も頂きました。「娘が生まれました」という恩師からの報告に会場から大きな拍手が起こり、師弟の絆の深さを感じたところです。

当日は、袋お囃子保存会の皆さんに獅子舞などで華を添えて頂きました。ありがとうございます。

新成人たちと協力して魅力的な旭市にしたいと思います。先に成人した者の責任を再認識した式典でした。